



news release

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号

[URL] <https://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

2025年11月14日

報道関係者各位

「北海道e-水（イーミズ）プロジェクト」 第16回 北海道e-水フォーラム開催

北海道コカ・コーラボトリング株式会社（本社：札幌市清田区 代表取締役社長：酒寄正太）は、2025年11月21日（金）「第16回 北海道e-水フォーラム」を下記の通り開催いたしますので、ご案内申し上げます。

「北海道e-水プロジェクト」は、2009年11月、北海道と当社との間で締結した「環境保全に関するパートナーシップ協定」に基づき、北海道の豊かで美しい「水」を中心とした自然環境を守り次世代へと引き継いでいくことを目的とし、北海道、公益財団法人北海道環境財団、当社の三者協働で取り組むプロジェクトです。



北海道e-水プロジェクト

当社が販売する「い・ろ・は・す 北海道の天然水 540mlPET・950mlPET」の売上の一部を（公財）北海道環境財団に寄付し、道内各地域で水辺の環境保全活動に取り組む団体および流域ネットワークの活動を支援するもので、2025年で16年目を迎えました。

当フォーラムでは本年度の寄付金9,619,575円（累計寄付額184,411,113円）贈呈式をはじめ、本年度採択された活動団体（5団体）の年間活動報告、有識者による特別講演が行なわれます。

【第16回 北海道e-水フォーラム 概要】

日時	2025年11月21日（金） 18:00～20:30（受付開始17:30）
会場	北海道庁旧本庁舎 赤れんが庁舎 ホールA 札幌市中央区北3条西6丁目1番地
お問合せ	公益財団法人 北海道環境財団 電話：011-218-7811
定員	100名（参加費無料）e-水プロジェクトホームページより要事前申込み・先着順
内容	・寄付金贈呈式 ・2025年度採択団体が活動内容を発表（e-水コース：5団体+当社e-水推進チーム） ・基調講演『海のゆりかご：アマモ場が支える生物多様性と私たちの暮らし』 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 厚岸臨海実験所 所長 仲岡 雅裕（なかおか まさひろ）教授 ※しずくコース（8団体）、次世代コース（4団体）にも発表いただきますが、行事全体時間の関係で録画し、後日北海道e-水プロジェクトホームページで公開いたします。
主催	北海道、公益財団法人北海道環境財団、北海道コカ・コーラボトリング株式会社

～北海道の環境を守る あなたの1本～



「北海道e-水プロジェクト」は、当社が販売する「い・ろ・は・す 北海道の天然水 540mlPET・950mlPET」の売上の一部を、（公財）北海道環境財団への寄付を通じて、北海道の水辺の環境保全を行っている活動団体を支援しており、2025年で16年目を迎え、寄付金額^{※1}は184,411,113円、支援団体は延べ214団体となり、e-水の活動やネットワークは北海道全域に拡大しています。

※1 北海道e-水プロジェクトの前身となる、北海道との「環境保護活動の推進に関する協定」に基づく寄付を含めた累計寄付額（2008年～2025年）

■ 別紙：2025 年度 北海道 e-水プロジェクト 支援団体（敬称略）

- ・ 対象となる団体：道内の水辺における環境保全事業を行う非営利の団体または流域ネットワーク
- ・ 対象となる事業：道内の水辺（川、海、湖沼など）において環境保全活動を行う非営利の団体（または流域ネットワーク）が行う事業。

<e-水コース（上限 200 万円）>

NO	団体名	事業名	活動地域	事業概要
1	NPO法人EnVision 環境保全事務所	大型希少鳥類の生息環境を 再生・創出する地域活動	中標津町 標津町	シマフクロウやタンチョウ、オシロワシといった大型の希少鳥類が、人為的な餌資源等に依存せず、自然状態で生息・繁殖できるよう、適切な河川環境を再生・創出する。標津川流域の河川において、魚類や水棲生物が生息できるよう石倉やバード堰等を設置する。また、こうした保全活動を地域に定着させるため、地域連携の協議の場を設けるとともに、参加型の魚類調査や観察会、市民フォーラムを開催し普及啓発を図る。
2	オホーツク魚類研究会	ため池百選 美幌温水溜池の水質調査	網走郡美幌町	美幌温水溜池は、美幌町の基盤産業である農業を支え、様々な絶滅危惧種を育む場所であることから、平成22年に農林水産省の「ため池百選」に選ばれた道内唯一の地である。そして、近年、こうした溜池が持つ水質浄化や二酸化炭素の蓄留機能が注目を集めている。そこで、本事業では、温水溜池の水質調査を高校生や地域住民と行い、溜池が持つ機能を明らかにする。その結果、自然豊かな温水溜池を知り、郷土愛の醸成を図る。
3	特定非営利活動法人 ジュマリナイ湖ワールドセンター	集落の水道水源河川に、 希少魚類のふるさとを増やそう！	幌加内町	朱鞠内湖の流入河川は希少魚類イトウ等の多様な魚類の生息環境や産卵環境となっている。また水道水源としても利用されており、生物多様性維持や集落の生活にとって重要である。しかし一部の流入河川は河川改修等により環境が劣化し、魚類の生息環境が失われている。本活動は、地元住民自らの手で魚が住める環境を創り出す活動と、住民向けの勉強会を通して、魚類の生息・産卵環境を改善及び、水環境保全の意識醸成を目指す。
4	富良野の自然に親しむ会	富良野盆地の原風景・鳥沼湿地 林再生プロジェクト	富良野市	富良野市に所在する鳥沼公園は僅か9haほどだが、豊富な湧水の鳥沼を中心に原生的な自然環境が遺されており、沼の西側にはハンノキが優占する湿地林が分布する。近年、河川浚渫や農地の暗渠工事の影響で湿地林の乾燥化が進行し動植物相にも変化が現れ、ヘイケボタルが見られなくなった。本活動では現状把握の調査から着手し、地下水位の年間変動と林内の現況植生調査を市民参加型の調査プログラムとして取り組む。本活動を通じて当該地域の環境変化の原因を採り、保全策の検討につなげたい。
5	特定非営利活動法人 みんなの	石狩川中流域の子どもたちによる 『森と海をつなぐ里川の自然』 プロジェクト	砂川市	砂川市の子ども若者の居場所「みんなの秘密基地」を拠点に、小中高生が主体的に取り組む里川環境活動。生物や植生調査、外来種駆除や水質改善の実験、漂着ゴミ拾いなどに加え、サイエンスカフェや発表会なども実施。フリースクール利用者による定点調査や実験、放課後のチーム活動など、未来の自然や地域を創出する当事者として子どもたちが社会参画しながら自然環境と共生する地域文化の醸成を目指す。

<次世代コース（上限 30 万円）>

NO	団体名	事業名	活動地域	事業概要
1	滝川高校しめっちらんジャーズ	絶滅危惧種エゾホトケが生息する江部乙うりゅう沼湿地保全プロジェクトを始めよう！	滝川市	滝川市江部乙うりゅう沼は絶滅危惧種のエゾホトケが生息する。エゾホトケが生息する小さな湿地環境は常に消失の危機にあり早急に生息状況を把握し、注視していく必要がある。滝川高校科学部を中心に結成したしめっちらんジャーズの活動として貴重な湿地環境保全のための継続的なモニタリング調査、適切な保全対策の策定のためエゾホトケの飼育生態研究を実施する。地域の湿地環境の価値を知ってもらうため観察会、成果発表会を実施する。
2	公益財団法人日本野鳥の会 ウトナイ湖サークチュアリ	ウトナイ湖サークチュアリ・ネイチャーセンターサポーター活動	苫小牧市	工業地帯に残されたウトナイ湖、弁天沼、美々川を含む勇払原野の湿地環境を守っていくウトナイ湖サークチュアリネイチャーセンターの活動を地域の皆さんにもサポーター（ボランティア）として、支えていただいています。現在小学生から70代までの34名の皆さんが登録し、しめっちらんジャーズと一緒に湿地環境保全を目的とした調査、展示物の作成、観察路の環境管理等を行っています。2025年度は、新たに始める定例観察会、ウトナイ湖内の清掃、原始の姿を残す美々川の調査などの活動をサポートしてもらいます。また地域の自然を守る人材育成の一環として、定例のウトナイ湖周辺スポットセンサス調査の結果をまとめ2025年度日本鳥学会大会「小・中・高校生」の部で発表します。
3	北海道岩見沢農業高等学校 農業土木工学科 農業クラブ 環境アセスメント専攻班	堤外地の保続利用による流域土壌保全と河川水質改善	岩見沢市	石澤ら(2024)により、流域土壌の炭素含有率の上昇が水質改善に効果がある可能性が指摘された。一方、石狩川とその支流の堤外地はまとまった面積があり、草本・樹木のバイオマス資源も豊富にみられる。そこで、これらを堆肥化し農耕地に施用することにより流域土壌炭素を上昇させる仕組みづくりを試みる。廉価なドローンとGISによる資源量測定、堆肥の試作と施用効果、土壌改善の確認、保続利用システムの提言を行う。
4	北海道七飯高等学校 科学同好会	渡島大沼のアオコ・漂流ゴミ回収 ボートの改良・改善と 回収したアオコの利活用	七飯町	2025年度は①ボートの材料にプラスチック製のものが使われており、マイクロプラスチックの問題が危惧されるため、環境にやさしい素材でボートを改良すること。②ボートと一緒に水に入って水面に浮かべずに沈むように改良すること。③利活用全体のコストや作業効率を良くし、利活用自体の完成度を昨年度よりも良くすること。

<しずくコース（上限 10 万円）>

NO	団体名	事業名	活動地域	事業概要
1	えこにわ	茂漁川 de お宝発見！ えこにわブルーサンタごみ拾い	恵庭市	子供達にきれいな海をプレゼントする「えこにわブルーサンタごみ拾い」を、恵庭のフットパスとして親しまれる茂漁川沿いで行う。町をキレイにし、講師やガイドと川の生物に触れながら、川から海につながる水辺の生態について学ぶ。ワークショップでは生き物や植物をスケッチし、「わたしのアクション宣言」を作成する。参加者が自然と触れ合い、「環境保全のために自分に何ができるか」を考え、行動するきっかけを作る。

※「しずくコース」つづき

NO	団体名	事業名	活動地域	事業概要
2	北見エコスクールSDGs協議会	常呂海岸清掃と マイクロプラスチック観察会	北見市常呂町海岸	本活動は、海洋プラスチックごみ、特にマイクロプラスチック問題に対する取り組みとして、参加者が自らの消費生活を見直すきっかけとなることを目的とし、常呂海岸における清掃活動(ごみ拾い)とデジタル顕微鏡を用いてのマイクロプラスチックの観察会を実施いたします。
3	水車・アヤマ川自然公園を 育てる市民の会	様々な活動に参加し水車・アヤマ 川自然公園を体感しよう	伊達市	当公園は昭和58年(1983年)に市民運動によって保全され、残された自然公園です。 市民運動の結果、水辺環境が保護され、自然公園として整備されました。そのため、安全に水辺に親しむことができる環境が提供されています。また、市街地に位置しており、多くの自然に触れる機会を提供しています。 これらの事実は広く知られていないため、当活動を通じて市民に周知し、多くの方々に利用していただくことで、自然公園としての環境の維持と保全に繋げてまいります。
4	一般社団法人 楽子森	森のようちえん「いつもり」 ～かわのいきものかんさつ～	札幌市中央区 札幌市南区	未就学児の親子が対象で、夏季の7～8月にばっけいの森にある沢や南区石山にある川で生き物を採取し観察します。 森のようちえん「いつもり」の月1度の活動の他に別途日程を2日追加で組み、なるべく多くの子どもたちと親御さんが楽しくかつ安全に川あそびができるよう実施したいと考えています。親子での共同作業と生き物への感謝そして川での安全な遊び方について等を伝えたいと思います。
5	チトセコ	おかえりなさいサケプロジェクト	千歳市	千歳川は水質が良く、毎年サケが遡上する貴重な自然環境ですが、川周辺にはボイ捨てごみが見受けられます。本事業では、昨年に引き続き千歳水族館と連携し、今年は川周辺と川の中のごみ拾いを実施します。親子で参加できるごみ拾いイベントで、楽しみながら環境問題を学ぶ機会を提供します。サケが安心して遡上できる環境を守るとともに、継続的な活動を通じて、地域住民の環境意識の向上を図ります。
6	日本湿地学会2025年度 大会実行委員会	公開シンポジウム 「北海道の湖沼の現状と課題」	七飯町	道内湖沼における水質モニタリング結果をとりまとめた「北海道の湖沼」が20年ぶりに改訂されることを機に、日本湿地学会第17回大会の公開シンポジウムとして「北海道の湖沼の現状と課題」を開催する。
7	羽幌町観光協会	焼尻島 海岸清掃と環境教育 プロジェクト ～食と自然のつながりが生む環 境保全活動～	羽幌町	2024年に初めて島内外の参加者を募り、海岸清掃を行いました。 島内外から予想以上の参加者を募ることができ、実施することができました。前回の結果を踏まえ、海岸清掃を通じて環境保全の重要性を伝え、清掃活動の参加者に対して島の漁業や昔の海岸の風景などの話を直接伝える機会を設け、焼尻島への愛着を深めてもらうことを目的とします。
8	NPO法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭	「獲物のあるビオトープ」での 自然体験学習	室蘭市	潮見公園の人工湿地に、在来の樹木や林床植物を植樹し、在来の昆虫、水生生物が生息できる環境を整えています。このビオトープで、子ども達が自由に遊び採集もできる自然体験の「場」を提供・整備し、市内の小学校や保育所などによる自然体験学習会を開催して、子ども達に地域の自然環境や、自然科学の楽しさと素晴らしさ、生命の尊さを学んでもらう活動を行います。



(今年度の採択団体活動風景)

私たち北海道コカ・コーラグループは、「北の大地とともに」をスローガンに、人々にさわやかさと潤いを届ける「どさんこ総合飲料メーカー」として、北海道の豊かな自然と地域ごとに魅力あふれる暮らしを未来につなげるため、「スマイルで暮らせる北海道」を道民の皆様とともに目指します。

<本件に関するお問い合わせ先>

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・サステナビリティ推進部 担当：伊藤
お問合せフォーム：<https://www.hokkaido.ccbc.co.jp/form/>



北の大地とともに。
北海道コカ・コーラグループ



<お問合せフォーム>

参考 1 活動の源である「い・ろ・は・す 北海道の天然水 540mlPET・950mlPET」について

- 北海道で販売される「い・ろ・は・す 北海道の天然水 540mlPET・950mlPET」は当社札幌工場の地下、深さ約 300 メートルの井戸からくみ上げた札幌市清田区南西方向にある白旗山方面から長い年月をかけて深い地下をゆったり流れてきた天然水で、厳しい品質管理を経て皆様にお届けしております。
- リサイクルペット素材^{※1}を 100%用いた“100%リサイクルペットボトル”を使うことで、「ペットボトルを資源として循環利用する“ボトル to ボトル”^{※2}」、「石油から新規に製造されるプラスチックの使用を削減^{※3}」、環境に配慮された製品として販売しております。

※1 540mlPET のみ

※2 使用済み PET ボトルを回収・リサイクル処理したうえで、PET ボトルとして再生し、飲料の容器として用いること

※3 一般的な PET ボトルとの比較

■ 参考 2 「北海道 e -水（イーミズ）プロジェクト」とは

- 北海道には豊かな水資源とそれを取り巻く美しい自然があります。この北海道の恵まれた水とそれを含む自然環境を道民全体で保全し、未来に引き継いでいくため、道民、事業者、行政の協働のもとで地域における水辺の環境保全活動に取り組む事業が「北海道 e -水プロジェクト」です。
- エコロジーをイメージする「e」と「きれいな水」というイメージを重ね合わせ、「北海道 e -水（イーミズ）プロジェクト」と名付けました。

■ 参考 3 累計寄付金額

2008～2024 年 寄付額実績	174,791,538 円
2025 年 寄付額	9,619,575 円
寄付額累計	184,411,113 円

■ 参考 4 「水循環 ACTIVE 企業」に 2 年連続で認証されました（2025 年 10 月）

- 「水循環 ACTIVE 企業」について
「水循環 ACTIVE 企業」は、内閣官房水循環政策本部事務局が、2024 年に創設した「水循環企業登録・認証制度」で認証された企業のことです。本制度は、直近 3 年以内に、水循環に資する取組実績を有し、実績を証明できた企業が認証を受けることができます。
- 当社活動の評価ポイント
水を使った製品を製造する会社として、流域や森林、豊かな自然環境、生態系の保全などに取り組む団体をサポートする「北海道 e -水プロジェクト」の仕組みや、水源域における森林整備・保全の活動等が評価されました。認証項目として「水量水質カテゴリー」と「人材資金カテゴリー」の 2 部門で評価される制度となっており、当社はどちらのカテゴリーも 2 年連続で認証されております。



（認証ロゴマーク）

第16回 北海道e-水フォーラム

第16回北海道e-水フォーラムを開催します。

今年にはリニューアルオープンした北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）ホールAでの開催を予定しています。

基調講演には、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所所長の仲岡雅裕教授をお迎えします。

北海道e-水プロジェクトの助成を受け全道で活動してきた団体をお迎えする基調講演の講師とともに、北海道の水環境について考えてみませんか？会場でお待ちしています。

2025

11.21 金

18:00～20:30

（受付開始 17:30）

会場

道庁赤れんが庁舎 ホールA

札幌市中央区北3条西6丁目1番地

地下1階南側出入口にて受付をします。正面出入口から
左側へ向かうと、地下1階南側出入口がご覧いただけます。

※赤れんが庁舎内の展示物はご覧いただけません。
（展示室への入室には有料チケットをお買い求めください）

事業名「アマモワッチとベントス調査」

特定非営利活動法人霧多布温原ナショナルトラスト(2024年)



2025年活動団体発表

【e-水コース5団体】（カッコ内は主な活動地域）

- ① NPO法人EnVision環境保全事務所（中標津町・標津町）
- ② オホーツク魚類研究会（美幌町）
- ③ 特定非営利活動法人シュマリナイ湖ワールドセンター（幌加内町）
- ④ 富良野の自然に親しむ会（富良野市）
- ⑤ 特定非営利活動法人 みんなの（砂川市）

【特別枠】（カッコ内は主な活動地域）

★北海道コカ・コーラボトリング株式会社（札幌市）

※北海道e-水プロジェクトは他に次世代コース4団体、しずくコース8団体に助成しています。次世代コース、しずくコースの活動発表は後日、北海道e-水プロジェクトのホームページで公開します。（URL→<https://emizu.heco-spc.or.jp/>）

基調講演

『海のゆりかご：アマモ場が支える
生物多様性と私たちの暮らし』

アマモ場は「海のゆりかご」と呼ばれ、水産有用種を含む多くの海洋生物が育つ場所であり、水質浄化、二酸化炭素吸収・隔離（ブルーカーボン機能）など、海を豊かに保つ大切な役割を担っています。しかし、近年進行する地球温暖化や沿岸開発などにより各地で減少が報告されています。本講演では、広大なアマモ場が残る北海道東部での研究活動を中心に紹介し、豊かな沿岸生態系を未来に残すために私たちができることについて考えたいと思います。

講師：仲岡 雅裕 教授（なかおか まさひろ）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
厚岸臨海実験所 所長



参加方法

参加費：無料（定員100名）

要事前申し込み・先着順

こちらのお申し込みフォームから申し込みください。

ご不明点は、下記のお問合せ先までご連絡ください。

参加者プレゼント

ご参加の皆さまに、「い・ろ・は・す 北海道の天然水」
540mlペットボトルを1本ずつプレゼントします。



お申し込みフォーム



お問合せ：北海道e-水プロジェクト事務局（公益財団法人北海道環境財団）

TEL：011-218-7811

※北海道e-水プロジェクトは北海道コカ・コーラボトリング株式会社、北海道、公益財団法人北海道環境財団の協働事業として、北海道の水環境保全活動に取り組んでいます。「い・ろ・は・す 北海道の天然水」540ml・950mlペットボトルの売上の一部は、『北海道e-水プロジェクト』の活動資金として活用されています。

